

日本気象学会

平成2年度秋季大会

大阪管区気象研究会

会期：平成2年10月24日（水），25日（木），26日（金）

会場：京都府総合見本市会館「パルス・プラザ」

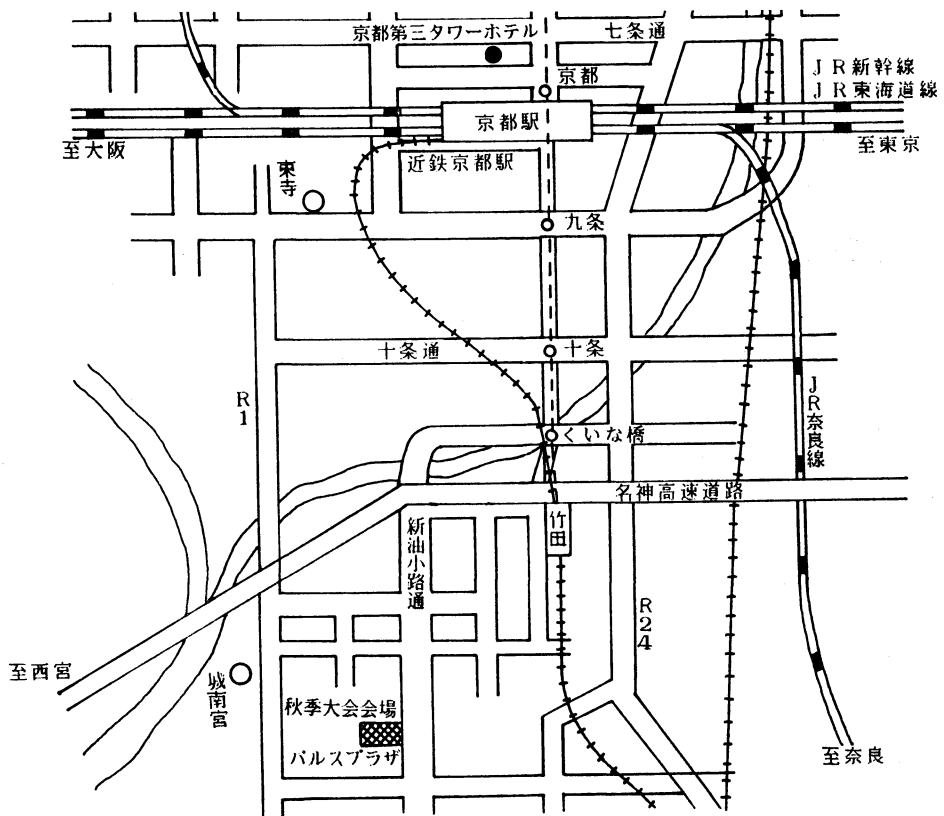
京都市伏見区中島堀端町21（電話 075-611-0011, Fax 075-611-6299）

目次

会場案内	627
研究発表内容一覧表	628
大会行事予定表	629
シンポジウム内容	629
研究発表題目	630～638

◇

会場案内図



平成2年度秋季大会

() は講演数 (第1種—第2種と講演番号), 一は座長

	A 会場	B 会場	C 会場	
10月24日 (水)	09:30~ 12:30	雲物理・積雲対流Ⅰ (7-9, A101~A116) —和田 誠—	大気大循環 (6-5, B101~B111) —二階堂義信— 熱帯気象Ⅰ (5-1, B112~B117) —隈 健—	観測手法 (17-3, C101~C120) —青柳二郎—
	13:30~ 16:00	雲物理・積雲対流Ⅱ (2-5, A151~A157) —高橋忠司— 中小規模現象Ⅰ (4-2, A158~A163) —三角幸夫—	地表面・大気相互作用 (10-5, B151~B165) —井上治郎— —福山 薫—	中層大気 (2-8, C151~C160) —塩谷雅人—
	16:10~ 17:30	ポスター・セッション (概要紹介は1件2分以内) (P101~P110)		
10月25日 (木)	09:15~ 12:00	中小規模現象Ⅱ (6-7, A201~A213) —平沢正信—	気象教育 (2-1, B201~B203) —丸山健人— エアロゾル (3-6, B204~B212) —大竹 武—	気象力学 (6-8, C201~C214) —林 祥介—
	13:00~ 15:00	山本正野論文賞・堀内基金奨励賞授与, 日本気象学会奨励金贈呈 山本正野論文賞・堀内基金奨励賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム「集中豪雨」		
10月26日 (金)	09:15~ 12:30	中小規模現象Ⅲ (8-3, A301~A311) —荒川正— 台風・熱帯気象Ⅱ (7-2, A312~A320) —山岬正紀—	放射・大気化学 (4-5, B301~B309) —山内 恭— オゾンⅠ (2-5, B310~B316) —林 政彦—	局地循環・エクマン境界層 (10-7, B301~C317) —中村晃三—
	13:30~ 17:00	気 候 (8-10, A351~A368) —岩崎友彦— —高橋日出男—	オゾンⅡ (5-5, B351~B360) —鶴田治雄—	小気候・接地境界層 (6-5, C351~C361) —塚本 修— 大気汚染 (5-3, C362~C369) —藤田慎—

発表件数 240件 (第1種講演125, 第2種講演105, ポスター10)

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」5月号 (p.354) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

大会行事予定

1. 会場：京都府総合見本市会館「パルス・プラザ」(電話 075-611-0011)
 A会場：稲盛ホール (3, 4階)
 B会場：ラウンジ (5階)
 C会場：第3会議室 (5階)
 ポスター会場：稲盛ホールのホワイエ
2. 会期：10月24日 (水), 25日 (木), 26日 (金)

行事			
大会 (研究発表)	(A, B, C会場)	10月24日 (水)	09:30~12:30 13:30~16:00
大会 (ポスター・セッション概要紹介)	(A会場)		16:10~16:30
大会 (ポスター・セッション)	(ポスター会場)		16:30~17:30
大会 (研究発表)	(A, B, C会場)	10月25日 (木)	09:15~12:00
山本正野論文賞・堀内基金奨励賞授与, 日本気象学会奨励金贈呈	(A会場)		13:00~13:30
山本正野論文賞・堀内基金奨励賞記念講演	(A会場)		13:30~15:00
シンポジウム	(A会場)		15:30~17:30
懇親会	(B会場)		18:00~20:00
大会 (研究発表)	(A, B, C会場)	10月26日 (金)	09:15~12:30 13:30~17:00

シンポジウム「集中豪雨」

1. 日時：大会第2日 (10月25日) 15:30~17:30
2. 会場：A会場 (稲盛ホール)
3. 座長：余田成男 (京大・理)
4. 話題提供者
 小倉義光(気象協会)：解析・メカニズム
 萬納寺信崇(気象庁・数値予報)：予測
 吉澤 博(神戸市)：情報・防災

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

研究発表題目

(講演番号の * 印は第2種講演を, 発表者名の * 印は講演者を表す)

大会第1日(10月24日) 9時30分~12時30分

A会場 雲物理・積雲対流 I

座長 和田 誠(極地研)

- *A101. *上田 博・菊地勝弘(北大・理): 低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト: その4——鷗型雪結晶——)
- *A102. *播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理), 桜井兼市(北海道教育大・旭川): 低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト: その5——雨滴付雪結晶——)
- A103. *小西啓之・清水晶子・山下 晃(大阪教育大): 昭和基地の降水粒子観測
- *A104. 松浦由紀・*権田武彦(東京理大・理工): レーザー二光束干渉法による氷結晶の表面微細構造の観察
- A105. 楠 研一(新潟地台): ハローと氷晶雲の微物理構造について
- *A106. *谷口 恭・上田 博・菊地勝弘(北大・理): 低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト: その6——エアロゾル粒子の元素組成と体積濃度, 質量濃度——)
- A107. *桜井兼市(北海道教育大・旭川), 菊地勝弘・播磨屋敏生・上田 博・谷口 恭(北大・理): 低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト: その7——結晶内の固体粒子——)
- A108. 松尾敬世・水野 量(気研・物理): 雪雲内の雪粒子の成長に対する数値実験——雲粒の粒径がアラレの生成に及ぼす影響——
- A109. 猪川元興(気研・予報): 「あられの生成項」のバルク法によるパラメタリゼーション法
- *A110. 佐粧純男・森 太郎(スガウエザリング技術振興財団), 斎藤貴志・長岡昭男(スガ試験機): 雨から雪への移行時における雨滴, 湿雪粒子, 乾雪粒子の混在率
- *A111. *下舞幸作・安井元昭・高橋 劭(九大・理): ハワイレインバンドの電氣的活動
- A112. *塩原匡貴・浅野正二・松尾敬世(気研), 田中豊頭(気大): 層積雲の放射・雲物理特性の航

空機観測——AVIOM・FSSP・KING による雲水量の比較——

- A113. *水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理): HYVIS による巻層雲の内部構造の観測
- *A114. 松尾敬世・水野 量(気研・物理): 巻層雲の形成に関する数値実験
- *A115. *安井元昭・高橋 劭(九大・理): 雲粒子 TVゾンデ(PPIS-2)の開発
- *A116. *吉松和義・高橋 劭(九大・理): 雲の組織化と降水への下層収束の役割——数値実験

B会場 大気大循環

座長 二階堂義信(気研・気候)

- *B101. *内藤勲夫・菊地直吉(国立天文台): 不規則変動における極軸のまわりの角運動量収支
- *B102. *菊地直吉・内藤勲夫(国立天文台): 季節変化における赤道軸のまわりの角運動量収支
- *B103. *岡田 格(筑波大・院), 内藤勲夫(国立天文台), 安成哲三(筑波大・地球科学): 季節内変動の時間スケールにおける地球の極運動の維持機構 II. 天文励起極と大気励起極の回転スペクトルの比較
- B104. *掛川英男(筑波大), 小西啓之(大阪教育大), 村山昌平(東北大), 山内 恭(極地研): NOAA衛星データを用いた南極域の雲域変動
- B105. *三好勉信・瓜生道也(九大・理): 水が存在しない場合の地球の大循環について
- B106. 岩嶋樹也(京大・理・気候): 時間・空間スペクトル大気モデルにおける多重解と大気大規模場の季節変化
- *B107. 二階堂義信(気研・気候): 夏半球の亜熱帯高気圧研究(その2)——亜熱帯高気圧の熱力学的解析——
- B108. 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気象庁全球モデル一年積分の解析 I. 季節進行について
- B109. *隈 健一・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気象庁全球モデル1年積分の解析 II 熱帯
- B110. *山田慎一・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気

象庁全球モデル一年積分の解析 Ⅲ. 成層圏

- *B111. 鬼頭昭雄(気研・気候)：大気大循環モデルにおける長周期変動——1970—1989年の観測された海面水温による強制

熱帯気象 I

座長 隈 健一(気象庁・数値予報)

- B112. 杉 正人(気研・気候)：1987年と1988年の夏のモンスーンと海面水温
- B113. 時岡達志・遠藤昌宏・長井嗣信・北村佳照(気研)：大気海洋結合モデルでの赤道域海面水温形成の解析 海洋モデルの水平解像度の違いの影響
- B114. 宮崎保彦(気象庁・数値予報)：海面水温変動の類似性によるインド洋の海域区分
- B115. 沼口 敦(東大・理)：蒸発-風速フィードバックと熱帯積雲活動
- *B116. *謝 尚平(東北大・理), 久保川 厚(九大・総理工), 花輪公雄(東北大・理)：非線形 Evaporation-Wind Feedback (EWWFB) モード
- B117. *矢野順一(Bayreuth 大・物理), K.A. Emanuel (MIT)：成層圏と coupling した・改良された WISHE 赤道大気モデル

C会場 観測手法

座長 青柳二郎(気研・衛星観測)

- *C101. 小林健二(高松地台)：Q-map(等温位面上で解析された渦位分布図)でみた上層寒冷低気圧の発生過程
- C102. *片岡敏夫・柚木英二・道広憲秀・杉山広和・清水光郎・森 忠繁(岡山県環境保健センター), 塚本 修(岡山大・教養), 佐橋 謙(岡山大・教育)：音波レーダ(SODAR), 係留気球, 地上の気象観測器による下層大気の同時観測
- C103. *前川泰之(大阪電通大), 園井康夫(関西電力), 吉野文雄(土木研), 深尾昌一郎(京大・超高層)：二重偏波ドップラーレーダーによる日本海沿岸冬季雷雲の観測(速報)
- C104. 三角幸夫(気研・予報)：気象庁レーダーの雨量換算係数の統計的手法による決定
- C105. *井川貴史・吉野文雄・益倉克成・水野秀幸(土木研)：直交二偏波レーダによる降雨観測の測定精度
- *C106. *青柳二郎・鈴木 修・大野久雄(気研・衛星観測)：レーダ雨量の過小評価に就いて
- C107. *鈴木 修・青柳二郎・大野久雄(気研・衛星観測)：実用ドップラーレーダシステムの開発
- C108. 津田敏隆・橋口浩之・中村卓司・山本 衛・村山泰啓・深尾昌一郎・加藤 進(京大・超高層)：MU レーダー観測に現われる擬似シアーによる鉛直波数スペクトルの測定誤差について
- C109. *増田悦久・中村健治・岡本謙一(通信総研), 大西 勉(明星電気)：低層大気観測用レーダの開発
- C110. *永井晴康・光田 寧(京大・防災研)：合成開口式ドップラーソーダーのビームパターンについて
- C111. 岩本謙治・上野 崇・*川平浩二・塚田泰弘・塚本好孝・畑崎晃盛・牧野安良・山岸 明・田島俊彦(富山高専)：回転円筒水槽の流れと温度分布の立体的観測
- C112. 浅野和俊・東山禎夫(山形大・工), 野尻宗稔(光進電気)：パルス型イオン風速計の風向特性
- C113. 寺田浩一郎(電子技術総研)：模擬太陽移動システムによる回転式日照計の誤差
- C114. 蕪澤 浩・上田真也(気研・衛星観測), 石河直樹(明星電気)：視程計実験装置について(Ⅱ)
- *C115. *内藤玄一・田邊光教(防大・地球科学), 佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター), 中村秀臣(防災科研)：航空機から撮影された海水写真の画像処理による解析
- C116. 堀口光章(京大・防災研)：マイクロ波放射温度計による気温高度分布の測定——逆変換法の検討——
- C117. 青木忠生(気研・物理)：ファブリペロー干渉計による高分解分光法について
- C118. *高島 勉・増田一彦(気研・衛星観測)：大気上端の放射輝度に及ぼす異なったアルベドから成る地表面の影響
- C119. *増田一彦・高島 勉(気研・衛星観測)：NOAA-K 衛星による雲パラメータの推定
- C120. 高山陽三(気研・衛星観測)：海面温度観測用衛星赤外バンド(昼間)

大会第1日(10月24日) 13時30分～16時00分

A会場 雲物理・積雲対流 II

座長 高橋忠司(埼玉大教育)

- A151. 楠 研一(新潟地台): 持続する対流雲の形態の観測
- *A152. 岩波 越・上田 博・菊地勝弘(北大・理), 小泉直子(北大・環境), 高橋暢宏・松浦 馨(北大・理): 北海道オロフレ山系南東斜面の降雨機構——ドップラーレーダーによる雲内の気流の観測——
- *A153. *小泉直子(北大・環境), 上田 博・菊地勝弘・谷口 恭・岩波 越・城岡竜一(北大・理): オロフレ山系を越える気流と降雨システムのドップラーレーダーによる観測
- A154. 高橋 勲(九大・理): Hawaiian Rainband Project——速報
- *A155. *水野 量・山田芳則・松尾敬世・村上正隆(気研・物理), 気象研台風(神原ほか)・北大低温研(遠藤・藤吉ほか) 降雪観測グループ: バンド状降雪雲の熱力学的・力学的構造
- *A156. 和田 誠(極地研): 昭和基地付近を通過した冬の低気圧・前線付近の雲の特徴——1988. 7. 24—7. 27のケーススタディ——
- *A157. 小西啓之(大阪教育大), 遠藤辰雄・若浜五郎(北大・低温研): 昭和基地における降雪エコーの年変化

中小規模現象 I

座長 三角幸夫(気研・予報)

- *A158. 道本光一郎(防大・地球科学): 小松周辺の冬季雷雲下における電界変化について
- *A159. *大野久雄・鈴木 修・青柳二郎(気研・衛星観測): ドップラーレーダーが捕らえた晴天の突風
- A160. *大野久雄・鈴木 修・青柳二郎(気研・衛星観測): マイクロバーストか? 1990年7月19日午後埼玉県妻沼町で家屋倒壊
- A161. 葦澤 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): 1990年7月19日のガストフロント
- A162. 安達 智(潮岬測): 1988年9月25日串本町を通過した竜巻について
- A163. 田平 誠(愛知教育大): 発達した対流雲に伴って観測されたインフラソニック波(II) <1990年7月24日の例>

B会場 地表面・大気相互作用

座長 井上治郎(京大・防災研)

- B151. 住 明正(東大・理), 竹内謙介(北大・理): 大気-海洋-陸面系のふるまいについて(I)
- B152. *藤谷徳之助・萩野谷成徳(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(6)
- B153. *金 栄彦・木村竜治(東大・海洋研): 暖流域上の熱収支の変動特性
- *B154. *藤原福一(岡山市公害監視センター), 柴田幸寛・山下栄次(岡山理大), 大滝英治(岡山大): 海水中の二酸化炭素濃度
- B155. *山崎 剛(東北大・理), 櫻岡 崇(大和総研), 中村 亘・近藤純正(東北大・理): 積雪変成のモデル化—特にアルベードについて—
- *B156. *桑形恒男・近藤純正・住岡昌俊(東北大・理): 複雑多様地表面における地表面湿潤度の推定
- B157. *加藤内蔵進・岩崎博之(名大・水圏研), 松本淳(東大・地理): 中国大陸域における夏季の降水帯と地表面状態
- B158. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産技研): タイ・チャオプラヤ川流域における地表～大気結合系の水収支
- B159. *立花義裕・若濱五郎(北大・低温研): 大気鉛直熱輸送に及ぼす河川の役割
- B160. 土谷彰男(筑波大・水理実験センター): ブラジル北東部で採取したファペイラの年々の材積の変化と水収支
- B161. 森 広道(大阪管区): ソ連の農業生産量について
- *B162. 榎本浩之(北見工大・一般教育): 南極圏の海水分布の経年変動に影響する大気循環について

座長 福山 薫(三重大・教育)

- *B163. 森山 茂(日大・生産工): 生命の存在と地球環境の生成
- B164. *岩朝美晴(中京短大・経営), 阿部 豊(名大・水圏研): 放射対流平衡の「直接」計算(2)
- *B165. 田中 浩・*酒井孝太郎(名大・水圏研): 氷期・間氷期変動のモデリング——Modified Biogeochemical Model——

C会場 中層大気

座長 塩谷雅人(京大・理)

- *C151. R.D. Palmer(京大・超高層), M.F. Larsen

(Clemson 大), R.F. Woodman (Jicamarca Observatory), S. Fukao・M・Yamamoto・T. Tsuda・S. Kato (京大・超高層): ESTIMATION OF TRUE VERTICAL VELOCITY USING RADAR INTERFEROMETRY

- C152. 津田敏隆・深尾昌一郎・加藤 進 (京大・超高層): インドネシアにおけるラジオゾンデ観測 (速報)
- *C153. 村山泰啓・津田敏隆・山本 衛・中村卓司・加藤 進・深尾昌一郎 (京大・超高層): MU レーダーとロケットゾンデで観測された中層大気中の卓越重力波の鉛直プロファイルの高度変化
- *C154. *村岡良和 (兵庫医大), 杉山卓也 (京大・理), 深尾昌一郎・山本 衛・山中大学・津田敏隆・中村卓司・加藤 進 (京大・超高層): 重力波周波数スペクトルの高度変化
- *C155. *中村卓司・津田敏隆・村山泰啓・山本 衛・

加藤 進・深尾昌一郎 (京大・超高層): MU レーダーによる中間圏重力波の特性の夏季・冬季観測における比較

- *C156. 深尾昌一郎・山中大学・阿尾直樹・山本 衛・中村卓司・津田敏隆・加藤 進 (京大・超高層): MU レーダーで観測された中層大気乱流の時間的・空間的変動度
- *C157. 大野裕一 (通信総研): 慣性内部重力波の f/ω の推定に関する問題点
- C158. *廣岡俊彦 (気大), 神沢 博 (極地研): 北極域成層圏で見られた 2 例の特異な温度構造の比較
- *C159. 谷貝 勇 (気研・気候): 波数 4 の地形によって強制された太陽と同期しない大気潮汐について——データ解析と GCM による数値実験——
- *C160. 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): GCM における成層圏の平均子午面循環の季節変化

大会第 1 日 (10月24日) 16時10分～16時30分

ポスター・セッション概要紹介

- P101. 三浦勇一 (東京理大・理工): 弱い停滞前線上で発生する巨大積乱雲を形成するメソ擾乱の構造 (その 1)
- P102. 黒田雄紀 (舞鶴海洋): M号の遭難に関係した収束雲の解析
- P103. 山崎孝治・千葉 長 (気研・気候) 炭酸ガスの北半球から南半球への輸送のシミュレーション
- P104. *田中 実・本多庸浩・丸山健人・森 一正 (気研): 熱帯西部太平洋における大規模じょう乱の解析(II)——1990年6月啓風丸観測航海時を中心として——
- P105. 中田勝夫 (音威子府高), 浅野浅春 (大阪教育大附高), 山下 晃 (大阪教育大): 人工多結晶雪の研究 (その 2)
- P106. 浅野浅春 (大阪教育大附高), 山下 晃 (大阪教育大): 融点直下で気相成長する氷の結晶
- P107. 猪川元典・水野 量・斉藤和雄 (気研), 気象研・降雪機構研究グループ: 対流性降雪雲の数値実験 (その 2) 氷晶生成項に対する感度実験 (種時実験)
- P108. 真野裕三 (気研・気候): NOAA/AVHRR/CH3 で見た雲の構造
- P109. *高橋忠司・宮崎裕治 (埼玉大・教育), 小元敬男 (大阪府大・農): 群馬県・埼玉県を襲った降雪について 1988年6月14日の場合
- P110. 道本光一郎 (防大・地球科学): 小松周辺の冬季航空機被雷に関する一考察

大会第 2 日 (10月25日) 9時15分～12時00分

A会場 中小規模現象 II

座長 平沢正信 (気研・予報)

- *A201. 二宮洸三 (札幌管区): 大陸東岸における Polar Low (meso- α -scale) の発達
- A202. *大窪 浩・萬納寺信崇 (気象庁・数値予報), 若原勝二 (函館海洋), 山下龍平・菅原 聡 (札幌管区): 気象庁日本域モデル (JSM) 及び10 KM メッシュモデルによる北海道西岸小低気圧のシミュレーション
- *A203. 三浦勇一 (東京理大・理工): 寒気の吹き出しに伴って発現する中規模渦状じょう乱の構造 (その 2)
- *A204. 渡辺 明 (福島大・教育): 冬期季節風吹き出し時の大気構造について

- A205. 永田 雅 (気研・予報) : 日本海側の降雪の数値シミュレーション VIII—中層ジェットの解析—
- A206. 中井専人 (防災科研・つくば) : 内陸地形上のメソスケールの降雪エコーの事例
- A207. 秋山孝子 (気研・予報) : 降水日の継続性からみた梅雨期と秋雨期の比較
- *A208. 野口晉孝 (気研・予報) : 南岸低気圧の接近に伴う関東沿岸前線とメソ擾乱
- *A209. *鈴木 修・大野久雄・青柳二郎 (気研・衛星観測) : 関東地方を南下した寒冷前線の局地的なふるまい
- *A210. 藤部文昭 (気研・予報) : 本州中部で日变化的な振舞をするメソスケールの寒冷前線
- *A211. *横田寛伸・森 広道 (大阪管区) : Narrow cold-frontal rainband のメソ構造
- A212. 松村三佐男 (高知地台) : 大雨時の高層風の解析—1989年8月30日の場合—
- A213. 山本光徳 (豊岡測) : 停滞前線に及ぼした熱帯低気圧の外側降雨域についての事例解析 (第1報) —1988年8月24~25日にかけて—
- B会場 気象教育**
座長 丸山健人 (気研・予報)
- B201. 大井正一: 明治時代の気象学・気象観測の発展 (3)
- B202. 丸山健人 (気研・予報) : 気象ファックスを用いた高層天気図の教材化
- *B203. 田中豊頭 (気大) : 降水粒子を浮遊させるための可搬形垂直風洞 (気象教育教材の試作 その1) エアロゾル
座長 大竹 武 (アラスカ大)
- *B204. 阿斐憲次 (筑波大・地球科学), 阿保 真 (都立大), 岡田菊夫 (気研・応用) : 中国大陸における黄砂の発生と長距離輸送 (1)—1990年春の現地調査—
- B205. *村山信彦 (駒沢女短大), 村治能孝 (国際気象海洋), 里村雄彦・佐々木秀孝 (気研・応用), 木村富士男 (東北大・理) : 黄砂の長距離輸送 (1)
- *B206. *大竹 武 (アラスカ大), 岡田菊夫 (気研・応用), 大和政彦 (群馬大) : 南極点でのエアロゾルは純硫酸
- B207. *銭 公望・石坂 隆 (名大・水圏研), 鶴田治雄 (横浜市公害研) : 霧発生前後におけるエアロゾル粒子と霧粒残渣1個1個の化学組成の比較
- *B208. *古賀聖治・田中 浩 (名大・水圏研) : 海洋大気中のメタンスルホン酸と過剰硫酸塩の濃度比
- *B209. *三浦和彦・熊倉俊郎・関川俊男 (東京理大・理) : 地球規模でのバックグラウンドエアロゾルの水平分布と大陸性エアロゾルの影響 (その2) 個々の海塩粒子の変質について
- B210. *毛利英明・岡田菊夫 (気研・応用), 田沢雄二 (京大・理) : 成層圏において採集された固体粒子の分析 (2) 元素組成
- *B211. *高島英之 (筑波大・院), 内野 修 (気研・衛星観測), 阿斐憲次 (筑波大・地球科学) : 気圧配置の変化に伴う自由対流圏エアロゾルの鉛直分布の変化
- *B212. *兼保直樹 (公害資源研), 太田幸雄・村尾直人 (北大・工) : 大気エアロゾルの気候形成に及ぼす効果 (II)
- C会場 気象力学**
座長 林 祥介 (東大・理)
- C201. *小出 孝・千葉 長・木田秀次 (気研) : 地形に強制されたプラネタリー波の散逸過程
- *C202. *竹生政資 (九大・大型計算機センター), 竹内 覚・瓜生道也 (九大・理) : ロスビー波による物質拡散の物理的メカニズムについて
- C203. 野田 彰 (気研・気候) : 平均的物質輸送と座標系
- *C204. *岩山隆寛・栢原孝浩・岡本寿夫・瓜生道也 (九大・理) : FGGE データセットから得られた気象擾乱の統計的性質
- *C205. *野村真佐子・余田成男 (京大・理) : n 次元力学系における初期誤差の分類と時間発展
- *C206. *三村和男・須田不二夫 (東海大・教養) : 円環内自然対流の非線形振動
- C207. *伊賀啓太・木村竜治 (東大・海洋研) : 泡 (サーマル) によって励起される対流運動
- *C208. *石波正樹・林 祥介 (東大・理) : 境界でフラックスを与えた2次元対流
- *C209. *山中大学・深尾昌一郎 (京大・超高層) : 多重対流圏界面としての下部成層圏慣性内部重力波
- C210. 山中大学 (京大・超高層) : 中層大気慣性内部重力波の飽和 (碎波) 条件について
- C211. 高藪 出 (気研・応用) : 温帯低気圧の「カッ

プリング発達]

- C212. 和方吉信(東海大・海洋), E.S. Sarachik(Washington 大): 局所的に変化する媒質を持つ平均場内の大気海洋結合不安定 Basin mode

- *C213. 金久博忠(気研・予報): 球面 modon の線形安定性

- *C214. 矢野順一(Bayreuth 大・物理): 非定常モード

大会第3日(10月26日) 9時15分~12時30分

A会場 中小規模現象 III

座長 荒川正一(広島地台)

- *A301. 和田美鈴(気研・予報): Jet-Front System に伴う水平変形場の積雲群に及ぼす影響

- A302. *張 泉湧(東大・海洋研), 吉崎正憲(気研・予報): COPT81 で見られた熱帯スコールラインの数値シミュレーション: 準平衡なスコールラインの構造とセルの振舞い

- A303. *郷田治裕・栗原和夫(気象庁・数値予報): 非静水圧3次元スペクトルモデル開発

- *A304. *萬納寺信崇・栗原和夫(気象庁・数値予報): 気象庁局地スペクトルモデルによる Mei-Yu front の数値シミュレーション

- A305. 神田正一(舞鶴海洋): 地域の予報におけるGPVの利用の有効性

- *A306. *小谷玄哉・山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・工), 山本 衛・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MU レーダーによる中~中間規模降雨系の力学的構造の観測

- A307. 宮武 豊(広島地台): 1989年7月12日~13日にかけての大雨の特徴

- A308. 井上芳郎・渡部浩章・金森恒雄(松江地台): 島根県西部の豪雨の解析(1988年7月20日)

- A309. *堀口善一・山口 実(京都地台): 京都府南部における梅雨前線による局地大雨の一考察

- A310. 富田正夫・*大西健二郎(京都地台): 1989年8月22日夜の宇治市付近の局地的強雨

- A311. 橋本宏晃・*正木 明(神戸海洋): 日本海南部に停滞する前線帯暖域内の帯状雲域南端で発達した対流積雲——1989年9月14日の大雨——
台風・熱帯気象 II

座長 山岬正紀(気研・台風)

- *A312. 佐藤 薫(京大・理): MU レーダーで観測された台風に伴う小規模擾乱(2)

- A313. *吉本真由美・木村竜治(東大・海洋研): 台風上部の発散と地衡風調節

- A314. 山岬正紀・原 昌弘(気研・台風): 熱帯低気圧の数値実験(傾圧不安定波等との相互作用, 序報)

- *A315. 邊田有理江(京大・防災研): 熱帯低気圧の発生をとりまく風の場の解析

- A316. 山崎信雄(気研・台風): 太平洋高気圧の季節内変動: 続報——傾圧成分と傾圧成分への分離

- A317. *森 一正(気研), 飛田 良(気象庁・海上気象), 田中 実・丸山健人・本多庸浩(気研): 西部熱帯太平洋上のクラウドクラスターのレーダー観測——啓丸丸90-02次観測航海速報——

- A318. *中澤哲夫・高橋清利(気研・台風): 1982/83 ENSO 発生期におけるスーパークラスター

- A319. *高橋清利・村上勝人(気研・台風): エルニーニョ時における熱帯対流活動と SPCZ およびその循環場の変動について

- A320. 新田 勲・*水野孝則(気大), 高橋清利(気研・台風): 1986/87エルニーニョ発生期の風の変動

B会場 放射・大気化学

座長 山内 恭(極地研)

- B301. 塩原匡貴(気研・気候): エプリー赤外放射計の測定精度

- B302. 太田幸雄・村尾直人・*林 健太郎(北大・工): 1986, 87年の日本地域の大気混濁係数の算出

- *B303. 高村民雄(防大・地球科学): 都市化による地表面反射率の変化——東京におけるケース——

- *B304. 小林隆久(気研・応用): 有限雲群の反射 Radiance パターン

- *B305. Y. Takano・K.-N. Liou(Utah 大), *浅野正二(気研・気候), A.J. Heymsfield(NCAR), P. Minnis(NASA): The effects of small ice crystals on the infrared radiative properties of cirrus clouds.

- B306. 石坂 隆・*皆巳幸也・大和政彦・銭 公望・倉橋佳伸(名大・水圏研), 鶴田治雄(横浜市公害研): 乗鞍岳における雲水の化学組成に関

する観測—霧水中の主成分の分析とその生成—

- *B307. *鶴田治雄・太田正雄・渡辺善徳・矢本てるみ
・前田裕行・平野耕一郎（横浜市公害研），皆
已幸也・銭 公望・石坂 隆（名大・水圏研）：
乗鞍岳における霧水と雲水中の化学成分の測定
——過酸化水素の測定結果とその酸化能力——
- B308. *青木周司・川口貞男（極地研）：大気中のメタ
ン濃度高精度連続観測システム
- *B309. 中澤高清・*町田敏暢・田中正之（東北大・理），
藤井理行・青木周司・渡辺典亜（極地研）：南
極みずほコア，やまとコアを用いた過去におけ
る CO_2 ， CH_4 濃度の推定

オゾン I

座長 林 政彦（名大・太陽地球研）

- *B310. *栢原孝浩・秋吉英治・瓜生道也（九大・理）：
オゾンを変化させたときの温度変化
- B311. 中根英昭・杉本伸夫・林田佐智子・松井一郎・
湊 淳・笹野泰弘（国立環境研）：オゾンレ
ーザーレーダー観測における系統誤差要因と対
策
- *B312. *久野俊明・小池 真・近藤 豊・岩坂泰信・
林 政彦・岩田 晃（名大・太陽地球研）：太
陽散乱分光法を用いた成層圏 NO_2 ， O_3 の観
測及び分光器の改良
- *B313. *堤 之智・牧野行雄（気研・物理），廣田道夫
（気象庁・海洋）：筑波における地表大気での
 O_3 と CH_4 の相関について
- *B314. *速水 洋（電力中研），村井直人・太田幸雄・
溝口 勲（北大・工）：バックグラウンドオゾ
ンの都市大気環境に及ぼす影響(2)
- *B315. *中山里美・村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北
大・工)：対流圏下層におけるオゾンの長距離
輸送——流跡線解析——
- B316. 佐藤公喜（愛知県公害調査センター，名大・水
圏研）：成層圏オゾンの対流圏における輸送過
程の解析(2)

C会場 局地循環・エクマン境界層

座長 中村晃三（東大・海洋研）

- *C301. 鳥谷 均（防大・地球科学）：積雪面上で観測

された斜面下降風について

- C302. 小林哲夫・*森 牧人・脇水健次（九大・農）：
福岡県若宮町黒丸地区における冷気流観測(2)
- *C303. 豊田威信（札幌管区）：気圧場からみた寿都の
風
- *C304. *五十嵐弘道・山川修治・山下孔二（筑波大・
地球科学）：菅平で観測された風下波動による
積雲とレンズ雲
- C305. 木村富士男・桑形恒男（東北大・理）：谷や盆
地における気圧の日変化について
- *C306. 蒲生 稔（公害資源研）：関東平野の混合層(そ
の9)
- C307. 藤部文昭（気研・予報）：関東平野への暖気侵
入に伴う局地温暖前線
- C308. 黒崎明夫（気研・衛星観測）：ドブラレーダの
晴天エコーと局地風系
- *C309. 吉門 洋（公害資源研）：昼間のヒートアイラ
ンド循環の数値実験
- *C310. 水間満郎（京大・原子炉）：スペクトル法によ
る海陸風数値モデルの構築(IV)
- C311. 大河内康正（八代高専）：周期加熱に対する局
地循環モデルの応答
- C312. *斉藤和雄・猪川元興（気研・予報）：3次元非
静水圧モデルによる局地風のシミュレーション
- *C313. 山田哲二（米国ロスアラモス国立研）：デスク
トップコンピューターによる複雑地形上の3次
元大気流のシミュレーション
- C314. *栗田 進・高橋俊二・佐藤純次・吉川友章(気
研・応用)，木村富士男（東北大・理）：大気境
界層中の Stagnation Streamline に関して
- C315. 藤原滋水・木村竜治（東大・海洋研），内藤成
規（気象衛星センター）：済州島風下のカルマ
ン渦列の発生過程（第6報）
- C316. 吉川友章・佐藤純次・栗田 進（気研・応用），
村治能孝（国際気象海洋）：赤城山上空の気流
・乱流の測定と解析
- C317. *中村晃三・浅井富雄（東大・海洋研）：航空機
による大気境界層の構造の研究

大会第3日(10月26日) 13時30分～17時00分

A会場 気候

座長 岩崎友彦(京大・理)

- *A351. *謝 平平・光田 寧(京大・防災研): GMS 赤外画像データによる降水量の推定について
- A352. 佐藤信夫(気象庁・数値予報): 4次元同化システムにより求めた全球的水・エネルギー収支(I)
- *A353. 小寺邦彦(気研・気候): 太陽定数の変動とその地上気温に及ぼす影響
- A354. 大森孝治(大阪管区): エルニーニョの分類と太陽黒点数
- *A355. *山元龍三郎・角野有香・岩嶋樹也(京大・理・気候), 星合 誠(愛知学院大・教養): 11年周期の太陽活動に対応した海上気温および海面水温の変動
- A356. 村松久史(京大・防災研): 圏界面での放射束密度と地上気温(1)——冬季の晴天の場合——
- A357. 平沢尚彦(名大・水圏研): 日本付近の“雲帯”の特徴の季節変化と年々変化(暖候期)
- *A358. 角野有香(京大・理・気候): 20世紀後半の長期的気候変動(2)
- A359. 安成哲三(筑波大・地球科学): 北半球平均気温の変動に関連する大気循環パターン
座長 高橋日出男(広島大・総合科学)
- *A360. *上野健一・安成哲三(筑波大・地球科学): 北半球中高緯度における低気圧移動経路の年々変化について
- *A361. *菅野洋光(都立大・地理), 松本 淳(東大・地理): 北半球冬季における寒気の形成・南下の気候学的特性について
- A362. 田口彰一(公害資源研): 南半球の中緯度総観規模擾乱の統計的解析
- A363. 松本 淳(東大・地理): バングラデシュにおける降水量の長期変動と1987年の大洪水
- A364. 仁科淳司(東大・地理): 63年1月と84年1月の「豪雪」の比較
- *A365. 文 永守(筑波大・地球科学): 韓国における夏季降水地域区分
- *A366. 横田茂樹(高松地台): 四国地方半月降水量の主成分分析と500 mb 高度を用いた重回帰モデル
- *A367. *小元敬男・鱧谷 憲・青野靖之(大阪府大・

農): 都市効果を消去した計算によるわが国の気温の変化傾向(序報)

- *A368. 水越允治(三重大・人文): 19世紀前半における近畿・東海地方の冬の寒さと同地方太平洋側の冬の降水について

B会場 オゾン II

座長 鶴田治雄(横浜市公害研)

- *B351. *小池 真・近藤 豊・岩坂泰信・岩田 晃(名大・太陽地球研), 杉村行勇・牧野行雄(気研): 太平洋域における上部対流圏の NO 分布(IN-STAC II 航空機観測の結果)
- *B352. *村山昌平・中澤高浩・田中正之(東北大), 青木周司・川口貞男(極地研), 小西啓之(大阪教育大), 掛川英男(筑波大): 航空機による南極上空の対流圏オゾン濃度の測定
- B353. *山内 恭・神沢 博・川口貞男(極地研): 昭和基地における1987, 88, 89各年の春季オゾン層別の変化傾向
- *B354. 忠鉢 繁(気研・物理): 南極昭和基地におけるオゾン全量と成層圏気温との関係(日々の変動)・第2報(帰直線の他基地への適用)
- B355. 近藤 豊・岩坂泰信・小池 真・林 政彦(名大・太陽地球研), P. Aumedieu (CNRS), W. A. Matthews (DSIR), D.G. Murcay (デンバー大): 北極圏オゾン層の脱窒の進行及びオゾン破壊
- B356. 川平浩二(富山高専), 廣岡俊彦(気大): オゾンホールの発達に及ぼす力学効果の変動について
- *B357. *秋吉英治・瓜生道也(九大・理): 簡単な2次元モデルで再現されたグローバルオゾンと南極オゾンホール
- *B358. 塩谷雅人(京大・理): TOMS オゾン全量データに見られる赤道域の長周期変動について
- B359. *竹内延夫(国立環境研), 松田 学・比留間文彦(千葉大・映像隔測センター), 鈴木 睦(国立環境研), 土屋 清(千葉大・映像隔測センター): TOMS マップに見られるオゾンの挙動について, その1, 台風とオゾン濃度の関係
- B360. *比留間文彦・松田 学(千葉大・映像隔測センター), 竹内延夫(国立環境研), 土屋 清(千葉大・映像隔測センター): TOMS マップに見

られるオゾンの挙動について、その2、高層気圧配置とオゾン濃度変動

C会場 小気候・接地境界層

座長 塚本 修(岡山大・教養)

- *C351. *力石國男・菅谷重平・大西健二(弘前大・理): 青森市の降雪機構
- C352. *脇水健次(九大・農), 林 静夫(九大・熱帯農学研究センター), 小林哲夫(九大・農): 山地における雨量分布特性——孤立円錐山の場合——
- C353. 岩井邦中(信州大・教育), 伊藤碩陸(気象協会・長野): 岩菅山の気象・気候 I. 気温について
- *C354. 井上治郎・光田 寧(京大・防災研): HEIFE 地域の砂漠における試験気象観測結果
- C355. *石田廣史(神戸商船大), 山田道夫・光田 寧(京大・防災研): 直交 WAVELET 展開による風速・気温のスペクトル解析
- C356. *林 泰一・山田道夫・光田 寧(京大・防災研): WAVELET 展開による風速変動のスペクトル解析
- *C357. 松岡春樹: ワイツェッカー流乱子モデルを修正したフラクタル乱流のリチャードソン4/3乗則
- C358. 塚本 修(岡山大・教養): 水田の水位の変化が乱流輸送量に与える影響について
- *C359. *米谷俊彦・柏木良明(岡山大・資生研): 植物群落上の乱流特性について(28)
- *C360. *三上正男・藤谷徳之助・高藪 出・毛利英明(気研・応用), 戸矢時義(気象庁・企画): 森林上の気象特性と蒸発散量の評価(2)

- C361. *高橋俊二(気研・応用), 木村富士男(東北大・理): 植被層の多層モデル

大気汚染

座長 藤田慎一(電力中研)

- *C362. *薩谷泰資(神戸電波研・イオン情報研), 戸谷佳武(神戸電波研): 大気イオン密度分布観測による大気環境評価
- C363. 藤田慎一・高橋 章(電力中研): 二酸化硫黄の沈着速度とその季節変化
- C364. *佐橋 謙(岡山大・教育), 藤沢甲子雄, 山下栄次(岡山理大・理), 宮岡光広: 係留気球による大気汚染の鉛直分布の観測(フィージビリティ スタディ)
- *C365. *宮岡光広・藤沢甲子雄, 山下栄次(岡山理大・理), 佐橋 謙(岡山大・教育): 小型係留気球用エアサンプラの試作
- C366. *高橋俊二・佐藤純次(気研・応用): SM 法による移流拡散モデル
- *C367. *市川陽一・藤田慎一(電力中研), 池田有光(京大), 大原利真(計量計画研): 硫酸酸化物の広域輸送モデルの東アジア地域への適用
- C368. *北田敏廣・田中一浩(豊橋技術科学大): 春期の東アジアにおける汚染質の輸送特性——地球規模三次元シミュレーション——
- C369. *片谷教孝(富士通エフ・アイ・ビー研), 村尾直人(北大・工), 吉川友章(気研・応用), 岡本眞一(東京情報大), 小林恵三(産業公害防止協会): 東アジア地域における長距離輸送モデルに用いる気象データについて